

	開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
45	2008年11月14日	OIST 社内セミナー 「サラマンダーの神経生物学」	-	中西 節子 (OIST 内藤ユニット)	OIST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 39名 (海外20, 日本19) 合計 40名 (海外20, 日本20)
46	2008年11月14日	OIST 社内セミナー 「タスク依存な状態表現の探求」	-	大塚 誠 (OIST 銅谷ユニット)	OIST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 39名 (海外20, 日本19) 合計 40名 (海外20, 日本20)
47	2008年11月26日	「海馬苔状線維終末におけるβ-ホルボールエステル誘導型シナプス可塑性の小胞ダイナミクスメカニズム」	ゴードン・アーバスノット (OIST)	引間 卓弥 (東北大学大学院)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 20名 (海外10, 日本10) 合計 21名 (海外10, 日本11)
48	2008年11月26日	「マイトファジー：出芽酵母における自食作用関連経路を介したミトコンドリアの分解」	柳田充弘 (OIST)	岡本 浩二 (基礎生物学研究所)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 25名 (海外8, 日本17) 合計 26名 (海外8, 日本18)
49	2008年11月27日	「Nec1-5とPDGFβ受容体のNIH3T3細胞の先端における相互作用と局在：細胞運動における役割」	丸山一郎 (OIST)	天野 恭志 (神戸大学)	OITC 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 9名 (海外 3, 日本 6) 合計 10名 (海外 3, 日本 7)
50	2008年11月27日	「シナプス可塑性のためのカルシウム・ポンプ」	エリック・デ・シュッター (OIST)	ルース・エンブソン (オタゴ大学)	OIST シーサイドハウス	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 14名 (海外10, 日本 4) 合計 15名 (海外11, 日本 4)
51	2008年11月28日	日本におけるADHD研究	ゲイル・トリップ (OIST)	井上 祐紀 (国立精神・神経センター精神保健研究所) 加我 牧子 (国立精神・神経センター精神保健研究所) 増南 太志 (筑波大学) 船橋 新太郎 (京都大学) 岩坂 英巳 (奈良教育大学) 根来 秀樹 (奈良県立医科大学) 飯田 順三 (奈良県立医科大学) ゲイル・トリップ (OIST)	OIST シーサイドハウス	講演者 8名 (海外 1, 日本 7) 参加者 34名 (海外16, 日本18) 合計 42名 (海外17, 日本25)
52	2008年12月9日	「真核細胞における集団行動状態への相転移」	ジョナサン・ミラー (OIST)	トーマス・グレゴリー (東京大学・プリンストン大学)	OIST シーサイドハウス	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 5名 (海外 5, 日本 0) 合計 6名 (海外 6, 日本 0)
53	2008年12月10日	「初期胚発生の動的性質と精度」	ジョナサン・ミラー (OIST)	トーマス・グレゴリー (東京大学・プリンストン大学)	OITC サロンプルーム	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 8, 日本 2) 合計 11名 (海外 9, 日本 2)
54	2008年12月17日	「グラフ理論によるマイクロアレイデータ解析：可視化から外れ値検出まで」	ジョナサン・ミラー (OIST)	レイモンド・ワン (京都大学)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 7名 (海外 4, 日本 3) 合計 8名 (海外 5, 日本 3)

	開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
55	2008年12月19日	OIST 社内セミナー "InfomaxN"	-	ジョナサン・ミラー (OIST ミラーユニット)	OIST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 35名 (海外20, 日本15) 合計 36名 (海外21, 日本15)
56	2008年12月19日	OIST 社内セミナー 「カタユレイボヤ幼生における脳特異的 遺伝子のトランスクリプトーム解析」	-	濱田 麻友子 (OIST 佐藤ユニット)	OIST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 30名 (海外15, 日本15) 合計 31名 (海外15, 日本16)
57	2009年1月15日	「細菌二次代謝の進化システム生物学-生 化学の古い謎を解く」	事業推進部	ホルガー・ジェンク・コダマ (東京大 学)	OIST バイオセンター 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外 5, 日本 5) 合計 11名 (海外 6, 日本 5)
58	2009年1月16日	「Neuromorph/NeuroCount:皮質コラムシ ミュレーションのための解剖学データの自 動収集」	銅谷賢治 (OIST)	マルセル・オバランダー (Max Planck 神経生物学研究所)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外 8, 日本12) 合計 21名 (海外 9, 日本12)
59	2009年1月16日	OIST 社内セミナー 「ユビキチン・プロテアソームシステムは 水晶体繊維分化に必須である」	-	今井 文康 (OIST 政井ユニット)	OIST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 40名 (海外15, 日本25) 合計 41名 (海外15, 日本26)
60	2009年1月16日	OIST 社内セミナー 「樹状突起の計算論的関連性を追求する」	-	ベンジャミン・トールベンニールセン (OIST シュティーフェルユニット)	OIST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 40名 (海外15, 日本25) 合計 41名 (海外15, 日本26)
61	2009年1月20日	「マウス小脳皮質におけるフィードフォ ワード抑制の感覚情報処理制御」	事業推進部	デュー・ライ・キュー (理化学研究所脳 科学総合研究センター)	OIST バイオセンター 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 15名 (海外 8, 日本 7) 合計 16名 (海外 9, 日本 7)
62	2009年1月21日	「遺伝子群の進化における遺伝子の水平伝 達の役割」	事業推進部	アレキサンダー・サーシャ・ミクヘエフ (テキサス大学オースティン校)	OIST バイオセンター 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外10, 日本10) 合計 21名 (海外11, 日本10)
63	2009年1月23日	「微香の表現および臭味の連想的学習」	高橋智幸 (OIST)	伊藤 伊織 (アメリカ国立衛生研究所)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 30名 (海外15, 日本15) 合計 31名 (海外15, 日本16)
64	2009年1月29日	「単一試行における脳活動の抽出」	事業推進部	パイロン・ユー (スタンフォード大学ユ ニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン)	OIST バイオセンター 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外15, 日本15) 合計 31名 (海外16, 日本15)
65	2009年2月2日	「乱流沿岸海洋での幼生分散: 動力学と影 響」	事業推進部	御手洗 哲司 (カリフォルニア大学サン タバーバラ校)	OIST バイオセンター 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 30名 (海外15, 日本15) 合計 31名 (海外15, 日本16)
66	2009年2月3日	「選択的決定の神経機構」	事業推進部	マイケル・キャンボス (カリフォルニア 工科大学)	OIST バイオセンター 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外15, 日本15) 合計 31名 (海外16, 日本15)

	開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
67	2009年2月4日	「知覚意志決定の神経回路網力学」	事業推進部	コン・ファット・ウォン・リン (プリンストン大学)	OIST バイオセンター 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外15, 日本15) 合計 31名 (海外16, 日本15)
68	2009年2月4日	「遺伝子調節ネットワークにおける回路、分化、恒常性」	ロバート・シンクレア (OIST)	ポール・リュエ (フランス国立科学研究センター・リュミニエ数学研究所)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 11名 (海外 9, 日本 2) 合計 12名 (海外10, 日本 2)
69	2009年2月5日	「皮質受容野可塑性のシナプス記憶痕跡」	事業推進部	ロバート・フロエムケ (カリフォルニア大学サンフランシスコ校)	OIST バイオセンター 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外15, 日本15) 合計 31名 (海外16, 日本15)
70	2009年2月5日	「成長円錐のプロテオーム分析により解明された新たなニューロン成長関連タンパク質」	丸山一郎 (OIST)	五十嵐 道弘 (新潟大学)	OITC サロンルーム	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 13名 (海外 5, 日本 8) 合計 14名 (海外 5, 日本 9)
71	2009年2月9日	「物理学と工学におけるミクロン規模からマクロデータまで」	ジョナサン・ミラー (OIST)	アレキサンダー・パロフ (ロモノソフモスクワ大学)	OIST シーサイドハウス	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 6名 (海外 4, 日本 2) 合計 7名 (海外 5, 日本 2)
72	2009年2月12日	「質量分析を使って昆虫の化学的言語を理解する」	事業推進部	ジョアンヌ・ユー (ハーバード大学メディカルスクール)	OIST バイオセンター 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 30名 (海外15, 日本15) 合計 31名 (海外16, 日本15)
73	2009年2月12日	「ラットの嗅球における顆粒細胞から僧帽細胞への抑制の行動の状態に依存した変化」	銅谷賢治 (OIST)	津野 祐輔 (東京大学)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 19名 (海外 7, 日本12) 合計 20名 (海外 7, 日本13)
74	2009年2月13日	OIST 社内セミナー 「成体マウスにおける線条体スパイクタイミング依存的可塑性のドーパミン作動性調整」	-	新道 智視 (OIST ウィッケンスユニット)	OIST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 45名 (海外 20, 日本25) 合計 46名 (海外 20, 日本26)
75	2009年2月13日	OIST 社内セミナー 「乖離培養での線条体介在ニューロン」	-	S. ショック & K. ジョリン・ダヘル (OIST アーバスノットユニット)	OIST IRP ラウンジ	講演者 2名 (海外 2, 日本 0) 参加者 45名 (海外 20, 日本25) 合計 47名 (海外 22, 日本25)
76	2009年2月17日	「離散的信号の圧縮の問題に関する力学系システムと偏微分方程式の理論的方法」	ジョナサン・ミラー (OIST)	マクシム・コロテーフ (サムスン株式会社)	OIST シーサイドハウス	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 5名 (海外 5, 日本 0) 合計 6名 (海外 6, 日本 0)
77	2009年2月19日	「線条体細胞の集合の力学における機能状態」	ゴードン・アーバスノット (OIST)	ルイス・アルベルト・カリーロ・リード (メキシコ国立自治大学)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 25名 (海外15, 日本10) 合計 26名 (海外16, 日本10)
78	2009年2月20日	「時間・発火率コードによる単一スパイクニューロンの能力」	銅谷賢治 (OIST)	池田 思朗 (統計数理研究所)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 25名 (海外 8, 日本17) 合計 26名 (海外 8, 日本18)

	開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
79	2009年2月23日	「シナプスへの道：神経細胞におけるキネシンによる受容体輸送」	高橋智幸 (OIST)	ギョー・ローレント (東京大学)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 10名 (海外5, 日本5) 合計 11名 (海外6, 日本5)
80	2009年2月25日	「ニューロンの拡散障壁：シナプスから樹状突起まで」	エリック・デ・シュッター (OIST)	フィデル・サンタマリア (テキサス大学サンアントニオ校)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 12名 (海外 9, 日本 4) 合計 13名 (海外10, 日本 4)
81	2009年2月26日	「ニューロチップー微小電極アレイでの神経回路網：機能的薬物スクリーニングと臨床研究での応用」	ゴードン・アーバスノット (OIST)	ステファン・タイス (デュッセルドルフ大学)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外10, 日本10) 合計 21名 (海外11, 日本10)
82	2009年3月2日	「線虫におけるコンドロイチン硫酸プロテオグリカンによる生殖器形成の制御と神経細胞特異的遺伝子発現に関する分子の解析」	丸山一郎 (OIST)	佐々 壽浩 (理化学研究所脳科学総合研究センター神戸)	OITC サロンルーム	講演者 1名 (海外 0, 日本 1) 参加者 13名 (海外 6, 日本 7) 合計 14名 (海外 6, 日本 8)
83	2009年3月6日	「ニューロン分岐の性質上」	エリック・デ・シュッター (OIST)	ヘルマン・クンツ (ロンドン大学)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外14, 日本 6) 合計 21名 (海外15, 日本 6)
84	2009年3月9日	「制約ベースソルバの改善」	ジョナサン・ミラー (OIST)	ホースト・サムロウィッツ (マイクロソフトリサーチ)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 7名 (海外 7, 日本 0) 合計 8名 (海外 8, 日本 0)
85	2009年3月13日	OIST 社内セミナー 「ブルキンエ細胞モデルを実験データに合わせるニューロフィッターの利用」	-	ウエルナー・バンゲイト (OIST デ・シュッターユニット)	OIST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 39名 (海外19, 日本20) 合計 40名 (海外20, 日本20)
86	2009年3月13日	OIST 社内セミナー 「膜タンパク質の結晶化」	-	ウラジミール・メシェリヤコフ (OIST サマテユニット)	OIST IRP ラウンジ	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 39名 (海外19, 日本20) 合計 40名 (海外20, 日本20)
87	2009年3月16日	「海馬介在ニューロンの活性依存性可塑性」	クラウス・シュティーフェル (OIST)	イヴァン・ソルテス (カリフォルニア大学アーバイン校)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外18, 日本 2) 合計 21名 (海外19, 日本 2)
88	2009年3月17日	健全およびてんかん性歯状回の大規模計算モデル	クラウス・シュティーフェル (OIST)	イヴァン・ソルテス (カリフォルニア大学アーバイン校)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 20名 (海外18, 日本 2) 合計 21名 (海外19, 日本 2)
89	2009年3月19日	「広範なキナーゼの特性解析、プロファイリング、スクリーニングのための試薬群」	丸山一郎 (OIST)	タフェタ・チェン (ディスカバーエックス社)	OITC サロンルーム	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 13名 (海外 5, 日本 8) 合計 14名 (海外 6, 日本 8)
90	2009年3月19日	「後生動物におけるゲノム構造の進化史を再現する」	川島武士 (OIST佐藤ユニット)	ニコラス・ブットナム (ライス大学)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 8名 (海外 2, 日本 6) 合計 9名 (海外 3, 日本 6)

	開催日	テーマ	主催者	講演者	開催地	参加者
91	2009年3月26日	Ten-mタンパク質は視覚回路に不可欠	クラウス・シュティーフエル (OIST)	キャサリン・A・リーメイ (シドニー大学)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 12名 (海外10, 日本 2) 合計 13名 (海外11, 日本 2)
92	2009年3月27日	モーターコントロールエリアの開発の経験の役割	クラウス・シュティーフエル (OIST)	アトム・サワタリ (シドニー大学)	OIST IRP 会議室	講演者 1名 (海外 1, 日本 0) 参加者 21名 (海外18, 日本 3) 合計 22名 (海外19, 日本 3)

<添付資料#11-2>

ワークショップアンケート

Cell Regulations in Division and Arrest under Stress

分裂と停止の細胞制御

日付: 2008年4月6日~4月10日

回答数 35 件 (講師 17、参加者 11、OIST メンバー 3、その他 3、不明 1)

1. 講義内容

優良(25)、良(8)、可(1)、不可(0)、未回答(1)

- ・ 広範囲で奥深いのが特徴で面白い。
- ・ 講演者にマイクを正しく使うようお願いしてほしい。
- ・ Gullerova さん、カデワキさん、モリさんは特に良かった!

2. 会場設備

優良(28)、良(6)、可(0)、不可(0)、未回答(1)

3. 宿泊施設

未回答(1)

リザンシーパークホテル (講師): 優良(15)、良(1)、可(0)、不可(0)、未回答(1)

シーサイドハウス (参加者その他): 優良(9)、良(7)、可(1)、不可(0)

- ・ 沖縄料理が出れば尚良い。
- ・ 部屋が暑過ぎ!

4. 食事

優良(25)、良(10)、可(0)、不可(0)

5. 事務局

優良(28)、良(5)、可(1)、不可(0)、未回答(1)

6. 沖縄の印象

優良(24)、良(10)、可(1)、不可(0)、未回答(1)

7. 他のご意見、ご提案

優良(12)、良(4)、可(1)、不可(0)、未回答(18)

- ・ 自由時間が夜か午後であり、沖縄を探索することができると思う。
- ・ このミーティングの全てが素晴らしい!
- ・ とても素晴らしいミーティングだった。ありがとう!
- ・ とても刺激的で、考えをもたらせてくれ、楽しかった。
- ・ 将来的に、このワークショップのプロモーションを増すよう努めてほしい。
- ・ 40 unit が最良! すばらしいワークショップだ!
- ・ 聴衆者になぜこういう形態が必要なのかを説明する必要があったと思う。

ワークショップアンケート

Protein 3D Structure Visualization and Structural Bioinformatics

タンパク質の三次元構造の可視化と構造バイオインフォマティクス

日付: 2008年5月13日

回答数 16 件 (講師 1、参加者 15)

1. 講義内容

優良(12)、良(4)、可(0)、不可(0)

- ・ 良いプレゼン。価値がある。事前に私たちの構造を選んでソフトウェアを試せたら、時間短縮になったかもしれない。ワークショップは2時間程短くても良かったかもしれない。
- ・ このトピックに関しては何も知らなかったが、短い時間で多くを学んだ。実地体験がありとても良かった。
- ・ 可視化のモデル

2. 会場設備

優良(11)、良(5)、可(0)、不可(0)

3. 食事

優良(9)、良(4)、可(0)、不可(0)、未回答(3)

- ・ 取らなかった (が、コーヒープレイクの時にどなたかが焼いてきてくれたものはとてもおいしく戴いた)。

4. 事務局

優良(14)、良(2)、可(0)、不可(0)

5. 沖縄の印象

優良(9)、良(2)、可(0)、不可(1)、未回答(4)

6. その他のご意見、ご提案

- ・ 講師の方がトピックの資料 (参考文献、ワークサイト等) をセミナー前に教えてくれると便利だったろう。
- ・ (更に内容を掘り下げるために) このワークショップをあと数日間拡大してほしい。

ワークショップアンケート

Okinawa Computational Neuroscience Course (OCNC) 2008 沖縄計算神経科学コース 2008

日付: 2008年6月15日~7月4日

回答数 25 件 (チューター1、参加者 24)

1. 以下の点に関して、コースの印象はいかがでしたか。

1. 講義内容

- ほとんどの講義が私には少しレベルが低過ぎた。生物学には携わったことがないので、単一ニューロン/カルシウムチャンネル等の内容は難しかった。ザオッピング・リー先生とソフィー・ドヌーブ先生の講義はとて面白かった。
- とても興味深かった。主に議論されたトピックの導入コースは、その分野の専門外の生徒にとって講義から得るものを増すのに役立つかもしれない。
- とてもレベルの高い講義だった。講義を順序立てるようにもっと努めてくれれば、更に良かっただろうけれど。
- 様々なテーマやレベルが網羅されていた。とても興味深い講師陣だった。一日に一講義、一講演者というのが、集中することが出来て、私には良かった。現代教育科学的には3時間の講義形式はついていくのが難しい。補足すれば、より対話型、参加型の授業形式を検討してみても良いかもしれない。
- 卓越した講義。私にとって新しいことが多かったが、そこから沢山のことを学んだ。
- 素晴らしい。
- 良い。認知神経科学モデリングも網羅していれば、もっと良いかもしれない。
- 講演者の方々は必要な情報を詳細に説明してくださり、とても大変なことだったと思う。内容や時間管理がとてもしっかり出来ていた。
- とても良い。一つだけ意見するならば、最初の数日間でのパラレルトラックの時に、別の講義も受けてみたかった。
- トピック、スケジュール全般ともに良い。しかし、3時間の講義には2回の休憩を挟むべき。1回は少ない(1回の長い休憩より2回の短い休憩の方が良い)。
- 様々なトピックがためになり、役に立った。3時間の講義は良いが、休憩を二回挟むことをお勧めしたい。1.5時間も集中するのは少し難しい。
- 全ての講義がとても楽しかったが、難しい数学には時折ついていけなかった。実験主義者のために、もし基礎的な数学クラスがこういう講義の前であれば助かっただろう。文献を前もって読んでいたが、それでもついて行くのは難しかった。もう一点は、シミュレーション・ソフトウェアのチュートリアルは非効率的だった。特に NEST は、私が必要だったのは Matlab のみだった。生徒達とのソフトウェアを使うが事前に話し合い、必要なソフトウェアを教えるべきだった。
- 良かったが、順番はもっと整理されている必要が実際にはあった。例えば、マイケル・ハウザー先生の講義がコースの早い段階で行われていれば、他の講義の入門として有益だったろう。
- 何人かは実験主義者であり、様々なトピックにおいて理論的背景にあまり熟知していないことを考慮すれば、いくつかのトピックは詳細に説明しても良かったのではないかと。例えば、強化学習の基礎入門書、機械学習能力理論、等。また、樹状形態の人達は作業記憶モデルの講義では何も分からない様子で、その逆も然りだった。
- 私としては、機械学習能力・情報理論・概念的手法よりも、生物学的モデルについて興味があった。理論家として私は実験家から、特に行動に関連した分野に取り組んでいるが、適例はモデルに焦点を当てていない(例: 神経内分泌学等) 実験家から、もっと話を聞きたい。私にとってこのコースで最も価値があった点は、各分野の専門家である実験主義者と話し、どれが有用なモデルかについて意見を伺うことが出来たことだ。
- 講義の科学的質は素晴らしい。講演者らは生徒達が講義中やその後でした質問にも応対して

- いた。実験的、理論的な神経科学がバランス良く組み合わせられていた。
- 講義の質がとても良かった。時間の長さ(3時間)も申し分ない。
- ほとんどの講義が私の分野ではなかったので、理解するのが難しかった。しかし全ての講義から大変に刺激を受けた。私にとって特別な経験となった。
- 時間は良かった。ただ、もう少しシステムレベルの話が聞きたかった(これは私の研究的興味からであるし、きっと他の参加者は逆のことを言うだろうけれど)。
- ほとんどの講義は興味深く有益なものだった。いくつかの講義がもっとコース重視であれば、もっと役立つだろう。
- 素晴らしい題材が網羅され、たくさん異なるトピック全てが大変に興味深く、私の研究分野とは異なった。素晴らしい講師の方々にお会いでき、また、ラボへ数ヶ月間参加するよう招待まで頂いたので、進めたい。
- シャオ・ジン・ワン教授の意思決定におけるネットワークモデルとクリストフ・コッホ教授の人体実験のお話には感嘆した。
- 良い集まりだった。最初の週にあったソフトウェアのチュートリアルは多分多過ぎた。でも、私にとって目新しい内容ではなかった。役立つ内容だったのかは分からない。講義は、休憩が1回だけより、2回短く休憩がある方がずっと良い。
- もっと入門用講義が必要である。
- マイケル・ハウザー先生の講義の組み立てが、講義の最初の3分の1の時間で基本要旨を説明しており、大変良い。他の講演者も同じような組み立てであつたら良かっただろう

2. 生徒のプロジェクト

- プロジェクトに関して何も不満はない。タダシとあまり時間を過ごすことはなかったが、彼はいつも私の様子を伺い、必要なときは対応してくれた。
- 太郎はこの3週間とても頼りになった。彼には沢山のことを学び、彼の対応には感謝している。
- このプロジェクトの発想は良かったし、そこから多くを学んだ。
- 太郎と議論することで多くを学んだ。私のプロジェクトについて彼が聡明で重大な質問をすることで、私の考えが徹底的に設計、構築されることになり、物事を明確にするのにとても役立つ。また、統計物理学者としての彼の視点から恩恵を受けることができた。
- 色々学んだし、実験研究のモデル結果から利益を得られるだろう。特に OCNC で私がしたモデリング研究は新しい仮説を生み出してくれた。
- もしチューターを変えなければならなかったとしても、私は自分のプロジェクトから学んだことに満足している。
- 私達を常に忙しにさせるのは良い方法である。また、私達の研究アイデアが発展するよう促され、ここにいる専門家からフィードバックや提案が得られるのは、良いアイデアだ。
- チューターと生徒達は与えられた課題にとて真剣に取り組んでいた。
- これは大変に役立つ。プログラミングの経験がほとんどなかったのに、チューターは大変頼りになった。異なる専門を持つ複数のチューターから話が聞けるのが特に良かった。
- 基本的にプロジェクトは必要。チューターは私のプロジェクトにぴったりだった。
- 彼の生徒達に対する献身と誠実さには特に感謝している。とても助けになった。
- このサマースクール中に良いシミュレーションの結果は出せなかったが、トムをサポートのおかげでプロジェクトには満足だった。少なくとも次回は何をすべきか分かったので、このプロジェクトを続けることができるし、できれば、いつか結果を発表したい。
- 明らかに助けが欲しい時に、私のチューターは私のプロジェクトを助けることも本当に理解することもできないように見え、非常につらかった。また私のプロジェクトを理解してくれなかった。全く簡単な神経回路のことだったので…。結果的に作業の95%以上は指導を得ることなく終わった。
- トム・テツラフは素晴らしいチューターで、忍耐強く、聡明だった。彼の専門知識と、快くモデリングの基礎を教えてくれる姿勢から、多くを学んだ。
- 私のチューターは私のプロジェクトに関する文献にあまり精通していなかった。詳しく助けをもらうのは困難だった。幸い、この文献からモデルを発見し、複製し拡大できた。けれども、周囲には小さな問題を助けてくれる人達が勢いだったので、良かった。
- 最終的には私の生徒プロジェクトは満足できる結果となった。最初の頃は、ソフトウェアとシミュレーションの動作環境が上手くいくまでに随分と時間がかかった。チューターと作業できるのは良かったが、彼は NEST にあまり精通しておらず、代わりに NEURON で作業していた。なので、生徒とチューターをもっと上手く組み合わせよう考えることができたはず。使用するソフトウェア X の利用方法が分かるチューターが、ソフトウェア X でプロジェクトを進めたい生徒を指導すべき。

- プロジェクトはうまく整理されていて、チューターとの意見交換もし易かった。それにしても、第一週の終盤には、生徒達に自分のプロジェクトをざっと公表させれば良かったのではないか。でないこと、プロジェクト探しや、テーマを見直して変更するのに、随分と時間がかかっている。
- 実際のところ、トニーとはあまり議論できる機会がなかった。でも、多くの参加者が私の良き先生となってくれた。自分のプロジェクトにもがき奮闘したことは、良い経験となった。
- 私のチューターであるパブロや他のチューターの方々も、素晴らしい。
- チューターと参加者の密接な交流は常に有益なものだった。
- 私のチューターはとてとても頼りになり、私が何をしたいかという説明に耳を傾け、プロジェクトを大いに助けてくれた。必要なときは常にいてくれ、何時間でも作業してくれた。
- 私の素晴らしいチューターにとてとても感謝している。自分のプロジェクトにとてとても達成感を感じている。私が現在取り組んでいる実験研究を再生するスパイクングネットワークモデルが出来た。このモデルを更に展開させていきたい。
- もう少し熱心に取り組むべきだった。ピーチへの誘惑がとてとても強すぎた…。
- 計算神経科学には全く触れたことがなかった。特定のプログラムをどう使うのかを学ぶのに基本的に伴ってくる単一神経細胞モデルを選んだ。でも今思えば、もっと計算神経科学の概念に関わった、もっと学習体験を満たせるようなプロジェクトを見つけたかった(例. Ca 拡散)。

3. ポスター発表

- 疲れた。
- 良い。
- 皆が時差ぼけしている時だったので厳しかったが、これはきつと避けられないだろう。
- 私にとってはとてとても短かった。皆の研究アイデアを聞くには4時間では足りない。サマースクールの期間中ずっとポスターをどこかに貼っておけないのだろうか。
- ポスター発表はあまり有益ではなかったと思う。第一週の終盤に生徒同士がもう少しお互いのことを知ってもっと話せるようになってから実施すれば良かったかもしれない。
- ポスターセッションは他の生徒達の研究を学ぶ良い機会になり良かった。残念ながら、全てのポスターを見る機会がなかった。もう2日間そこに(または場所があればどこでも)置いてあれば良かったらう。
- とてとても興味深いポスターばかりだった。でも、もっと時間を取って勉強できるよう数日間貼ったままにしておくのは良い考えだろう。
- 生徒達の研究について学ぶ機会だったのだから、OISTのメンバーの方ももっと参加しても良かったのではないか。
- 良かった。他の人達の研究や関心を知ることができた。
- 自分達の研究について人々と交流できる素晴らしい機会。
- 他の参加者を知る良い方法だった。そして、時間の長さもちょうど適当だった。
- ポスターセッションはとてとても重要だ。ポスターは、ずっと、または、実際のポスターセッションに加えて少なくとも数日間、貼りだしてあれば良かった。
- 短く、分割し、もっと集中したポスターセッションを勧めたい。例えば、最初の週を通して毎日5時から6時まで各5人の生徒が行う。そうすればお互いの研究的興味をもっと徹底的に共有できる。
- これについては少し不満を言わなければならぬ。たくさんの方が一つのポスターで止まっていて動かなかった。興味のあるポスターをいくつか見ることが出来なかった。また、ポスターのための場所が十分に広くなかった。ポスターセッションを2つか3つのセッションに分割して違う日に実施することを勧めたい。また、ポスター+アルコール=素晴らしいディスカッションになると信じている…。
- 長過ぎた。他の生徒達の背景を掴み、お互いに打ち解けるためには、貴重な時間だった。
- とてとても活気に満ちていた。(ただ、皆はプレゼンの順番を守っていなかった。沢山の人が4時間ずっとポスターの説明をしていた。) 別々の部屋で2セッション実施しても良かったかも。
- セッションの後半には、ほとんどの人達がポスターを見るのに疲れたようだったので、2番目のセッションでポスターを見せた人達はあまりフィードバックを得られなかった。最初のセッションの時間を短くしてはどうか。
- 皆の所属機関での研究の概要を簡略に知るのに良い機会だった。ポスターセッションでこうすることにより、興味のある特別な研究を選ぶことが出来た。
- 興味深かった。ポスターの並びは、生徒の名前のアルファベット順でなく、トピック毎に分類しても良かったのでは。そうすれば同じ分野で研究する生徒達をお互い話し合う状況に持っていけるだろう。
- 講義と自分達の研究とをリンクさせて色々議論できるかもしれないので、コースの最終段階で

実施する方が良いと思う。

- バックグラウンドがあまりに違い過ぎて他の人達の研究を理解するのは少し難しかったので、それほど有益に感じなかった。ただ、他の参加者を知る良い機会ではあった。
- 悲しいことに一日遅れて到着(ポスターセッション当日)したので、最後の15分しか見ることが出来なかった。今後は、最低でも1週間はポスターを貼っておいてほしい。そうすれば生徒はもう時差ぼけでなく講師がいる間に、生徒は生徒同士や講師に対して発表できるので。
- 他のポスター発表を聞く方にとてとても自分のポスターを発表する方にとてとても時間が短過ぎた。
- ポスター発表は、他の参加者と会い、このコースに象徴される研究背景の多様性を感じられる、素晴らしい方法だった。

4. エクスカーション

- とてとても良い。
- 素晴らしい。
- 面白かった!
- 良く準備できている。
- あまり有益ではなかった。
- OISTの敷地内にもう少し見るところがあったら、もっと良かったかもしれない。ラボ見学は楽しかった。
- その日は病気だったので、行けなかった。
- 水族館見学は素晴らしい。開催してくれてありがとう!
- ポスターセッションでラボのスタッフがいて研究を発表して、銅谷ラボの準備の良さに感動した。
- (雨が降った事を除けば)良かった。
- 雨が降ったりバスが道で立ち往生してしまったりと災難! またキャンパスが完成したら見に来たい。
- ラボ視察は良かったし、必要なものだった。
- 楽しんだ。銅谷ラボでポスターセッションを開催したのはとてとても有益だった。
- 水族館のこと? 建設地のこと? 実のところ、どちらも楽しかった。
- 良い土産話になると思う!
- 水族館見学は素晴らしい。もう少し長く居られたら、もっと良かったけれど。
- 水族館見学はとてとても楽しかった。キャンパスサイト視察については、バスが道で動けない状態になったり、続けて大雨が降ってきたりして、少し困った。そうでなければ、自分達で旅行を計画できて、予め計画されたものに強制的に参加させられるのであれば良かった。
- 素晴らしい。日曜日にOISTを離れて、島内観光できる機会があるのは良い。
- エクスカーション後半のラボ見学はとてとても興味深く、楽しかった。でも前半の建設計画地視察はそれほど面白くなかった。
- 素晴らしい! 天気が悪かったのは残念。
- 勝連城址は良かった。銅谷ユニットのロボットがとてとても興味深かった。
- もう少し日本・沖縄的な文化に触れられたら良かった。
- どれのこと? キャンパス建設地見学? 5年後の完成後に戻ってきたい!
- ラボ見学は少し急がされているように感じた。ラボを一つ選んで、もう少し長く居られたら良かったらう。加えて、小さな点だけれど、ツアーの間に高橋ラボを見学できたら良かった。

5. 会場設備

- 最高。(5件)
- 完璧。(2件)
- 素晴らしい。(2件)
- とてとても良い。(2件)
- 良い。(2件)
- 素晴らしい! 10点満点。
- 施設は良かった。ミーティングルームの壁に書くことが出来るのは面白かった。
- ミーティングルームの管理は素晴らしい。
- とてとても良い、涼して明るい、電源とワイヤレスも整っていた!
- 特に「書ける壁」がお気に入りだ。
- シーサイドハウスはこのようなサマースクールをするには完璧な場所だ!
- とてとても実用的。この建物は交流がしやすい。
- 良かった。でも時々セミナールームの端とスライドが見づらかった。可能であれば部屋の前方に椅子をもういくつか置けると良い。

- ・メインで講義を行っていた講義室は素晴らしかった。最初の数日間（理論家の部分で）使用した部屋は狭過ぎた。
- ・タクシーのおかげで、シーサイドハウスへ簡単に辿り着けた。
- ・セミナールームは素晴らしかった。

6. 宿泊施設&食事

- ・素晴らしい。(5件)
- ・最高。(4件)
- ・完璧。(3件)
- ・これも良かった。
- ・とても良い。
- ・良い。
- ・宿泊施設は何も問題ない。食事も素敵だったが、時々何回も同じメニューが出てきた。1~2回はどこかのレストランで食事を用意すると良いかも。
- ・食事は美味しかったし、部屋もとても良かった。
- ・食事は素敵だった。新鮮なフルーツが1日3食とも出てきて嬉しかった。ベジタリアン用の食事が時々欲しくなった。
- ・完璧な部屋、美味しい食事、エアコンは時々少し寒過ぎた。
- ・美味しい食事と良い部屋。海の眺めが最高だった。
- ・宿泊施設は最高で、食事も良かった。(食事はもう少しバラエティーに富んでいてもよかった)
- ・最高！(唯一の不満は、エアコンが寒過ぎ！)
- ・両方ともに良かったが、毎食に必ずベジタリアン用の食事があるわけではなかった。ほぼ毎年ベジタリアンにはいるだろうから、毎食最低1~2種類はベジタリアン用の料理を提供すると良いだろう。
- ・完璧！食事はとても美味しく、これ以上は望めない！
- ・部屋はとても良かった。でもベッドと枕は私には硬過ぎた。食事は満足できるものではなかった。毎日ほとんど同じものを食べなければならなかったから。
- ・最高！毎日新鮮なフルーツを堪能し、確実に体重が増えた。
- ・宿泊施設に関して、枕は硬くて高過ぎた。椅子も同じく硬かった。海やテニスコートがとても近いので、シーサイドハウス周辺環境は良かった。食事については、食事は毎日ほとんど同じ内容だった。だから飽きた。洗濯機はとても便利だった。
- ・宿泊施設、食事とも文句が一つも見つからない。本当に素晴らしかった！

7. 事務局

- ・完璧。(3件)
- ・すごい！
- ・最高。
- ・素晴らしい。(3件)
- ・とても良い。
- ・良い。
- ・問題なし。
- ・最高！これ以上に親身になって助けてもらうことなんてできない。
- ・スタッフはとても感じが良く、いつも居て助けてくれた。どうもありがとう！
- ・オフィスにいた全員がとても助けになってくれた。どんな質問にも答えてくれ、いつも出来ることは何でもして全力を尽くしてくれた。
- ・スタッフはとてもフレンドリーで助けになってくれた。
- ・全てを手配するために大いなる努力をしてくれた。
- ・最高。全てが明確になっていて、つゆき、あつこ等々、とても助けになってくれた。タクシーを呼んだりカラオケ屋に電話したりと社外活動についても助けてくれてコースを本当に素晴らしなものにしてくれた。
- ・素晴らしい、皆さんありがとう！
- ・素晴らしい、有能でフレンドリー。
- ・とても助けになった。ありがとう。
- ・とても感じが良くて助けになった。全て助けてくれてありがとう。あなた方なしでは、コースはスムーズに進まなかっただろう。
- ・とても有能！どうもありがとう。
- ・素敵にもてなしてくれた。文句のつけようがない。

- ・とても良い。助けになってくれたスタッフの皆さん、本当にどうもありがとう。
- ・とても良い！皆さん、私達のために色々楽しいことを準備してくれ、素晴らしい仕事ぶりだった。
- ・シーサイドハウスのスタッフは素敵だった。常にフレンドリーで助けになってくれた。

8. 旅行の手配

- ・完璧。(2件)
- ・最高。(2件)
- ・素晴らしい。(2件)
- ・良い。
- ・完璧。問題なし。
- ・大体において良かった。
- ・どうもありがとう。
- ・コースの前か後にもう少し日本に滞在できる機会があれば良かったが、DISTがフライトを負担しているのにそれは難しいということとはよく理解している。
- ・便利なフライトだった。
- ・全てスムーズに運んだ。
- ・良い！何も問題なかった。
- ・助けてくれてどうもありがとう。
- ・素晴らしかった。が、別件で東京でのニューロサイエンス会合のために延期したフライトは参加者が国内線分を自己負担しなければならなかったことと、それで差が生じるわけではないのに理由が分からないことを除けば。それよりも、旅行社は参加者が妥当な価格でチケットを購入できるよう日本の航空事情について情報を提供すべきだ。
- ・良い。ただ、法外なキャンセル料や変更手数料のない、もっと柔軟なチケットだったら、もっと良かっただろう。
- ・私の場合には完璧だった
- ・何も言うことはない程、うまくいった。
- ・つゆきが旅行を上手く手配してくれた。
- ・素晴らしい。ただ、思ったより乗り継ぎが多かった。よくある不満とは思えけれど。
- ・素晴らしい。復路のフライト出発時間が朝早過ぎたため、最後の夜のパーティを心置きなく楽しめなかったけれど。
- ・ここでとても言いたいことがある。私は沖縄→ドイツ往復路とも馬鹿馬鹿しいトラブルに遭った。私はドイツのフランクフルトからパリ→大阪→那覇へ飛び、その逆に戻った。
- 1. 沖縄に来る途中、パリでバックを紛失された。シーサイドハウスに私が着いた2日後に届いたが、バックは引き裂かれ、物が幾つか無くなっていた。
- 2. 帰りの時はもっとひどかった！パリで乗り継ぎをしたかった時、乗り換えたとき気付いた。セキュリティの前には長い列ができていて、航空会社のスタッフは搭乗時間前になっても私を列の前方に呼んでくれなかった。他の乗客にはそうしていたのに。おかげでフランクフルトへの接続便は1時間45分後に乗らなければならなかった。フランクフルトに着いたとき、預けた荷物の一部(ポスターロール)が紛失していた。私は最終地フライブルクへの電車の時間に間に合わせなければならなかったので、申告する時間もなかった。駅に到着すると、フライブルクへの次の電車は午前2時発、午前5時着だった。だから最終的に、私は30時間以上かけて帰ることになった。もちろんこれはDISTの旅行手配のせいではない。ただ、私の場合はパリ経由で日本に飛ばなければならなかったことが問題だったと思う。ドイツのフランクフルトから飛んでいるフライトもあったはずだと思う。パリを経由したことで沢山の問題が引き起こされ、全旅程が長引くことにもなった。エアフランスとシャルル・ド・ゴール空港には本当に嫌気がさした。この空港経由でこのエアラインを利用することはお勧めしない。私の提案としては、旅行手配にもっと生徒の意見を聞き入れてあげることだ。
- ・フライト予約で、私の名前のスペルが間違っていた(そして今年こういうことがあったのは私だけではなかったと聞いている)。
- ・良い。ただ、もう少し長く日本に滞在したり東京や他の都市を探索できるよう、もう少し柔軟にしても良かったのでは。

9. 沖縄の印象

- ・素晴らしい。
- ・本当によい場所。
- ・他からとても隔離されている！

- 日本の魅惑的な一面である。けれども、信じられないほど暑く、湿度が高く、いくぶん孤立している。
- 美しい島。
- 場所が好きだった。特に、シーサイドハウスが海にとっても近く、あらゆる海洋生物を見られたので。
- OIST 以外を見る機会があまりなかったので、判断するのは難しい。美しいビーチと海洋生物。この気候と上手付き合っていくのは苦労する人もいるだろう。孤立しているように感じた。那覇はかなり観光地化されているように思えたが、これは自分達が観光地に固執しているだけかもしれない。
- とても美しい島だが、私の体はこの気候に慣れることを拒否していた。
- 市街も自然も両方あり、とても素敵な地域。
- とても好きになった。素晴らしい人々、食べ物、景色。
- 良い天気と美しい景色。でも少し暑くムシムシしている。
- ビーチが美しかった。那覇は私には少し退屈だった。
- 友好的な人々、興味深い文化、他の世界から少し孤立している。
- 他の人々と触れ合えるよう少人数単位でアクティビティがあれば良かったらう。休日にはほとんどの人が観光地へ行ききたがるが、行き先は全く同じわけではない。コースの最後に休日があると良いかも。
- 沖縄の亜熱帯気候、海、フレンドリーな方々は楽しかった。レストランやバーへ数回出かけたが、人々はいつもオープンでフレンドリーで、沖縄の人達はかなり幸せそうな方々だという印象を受けた。残念ながら、あまり田舎の方はあまり見ることが出来なかった。だが、時々かなり貧困さもまたあるように思った。例えば那覇や沖縄市では、あまり文化教養的な生活が営まれている印象は受けなかった。他の日本人学生と話した時、日本の本土を見たいという好奇心に駆られた。いつかそれを実現できればと思う。
- 素晴らしい島だということがよく分かった。本当に良い場所。
- 沖縄は、訪れ、住むのにとっても良い場所だと感じる。実際に、沖縄に戻ってきたい。
- 美しいけど、少し湿度が多過ぎる。
- 忘れがたい。
- とても良い。驚くほどの天気と海、素晴らしい食事と仲間。
- 素晴らしい！また沖縄を訪れたい。
- 市街地はまあまあ良い。田舎はとても素敵。

10. その他のご意見、ご提案

- カラオケはとても楽しかった（注：外出先？）。ビールの自動販売機はとても便利だった。切手やハガキの販売が事務所内のどこかであれば便利だと思う。
- 最初の週に自己査定のための生物物理学の任意テストをする。短い進捗レポート（スライド1枚）を生徒に各週させて、誰か付いてこられなくなっていないか、間違った方向に行っていないかを確認する。
- ラボツアーはもう少し良く計画されていても良かったらう。生徒達はOISTの様々なラボの現行プロジェクトをもっと良く知るべきだ。
- OCNC 2008 が忘れられない。
- ディスカッションフォーラム（注：情報交流のためのWebサイトを主催ユニットが開設）はもっと早めに公開されても良かったらう。
- 再度ポスタープレゼンテーションについて。もし3週間ずっとポスターを置いておける部屋があれば、「科学的」会話を促すのに絶好だろう。私は非科学的な会話から沢山学んだけれど。
- どちらかのラボで実験的な技術を学び試せる機会があれば素晴らしいだろう。
- 忘れられない3週間をどうもありがとう！この素晴らしいサマースクールをいつも思い出すことになるだろう。このOCNCの大きな利点は、主催者は生徒達に自分でプロジェクトをさせ、最良の方法を「探求」させ、満足のいける貴重な科学的成果を出させてくれたこと。このサマースクールを成功させた更なる要因は、見事な設備（宿泊施設と機器）、素晴らしい食事、世界中から参加していた生徒とチューターと地元民との集まりだった。
- 最大の点はポスターを初日だけでなくもっと長く貼っておくこと。前述参照。
- 日本語の初級クラスが最初の週にあれば、皆ためになったと思う。（「すみません」、「お願いします」等）。
- ビーチの岩石をきれいな砂と代えてくれたら素敵。

2. 将来のコースについての提案

1. もし来年もこのようなコースが開催されたら、同様に申し込みをするよう勧めますか？

- はい。(8)
- はい、当然。(4件)
- もちろん、はい。(3件)
- 間違いなく。(3件)
- 当然。(2件)
- 当然はい。
- もちろん。
- 当然。モデリングに興味のある人を個人的にはあまり知らないけれど、友達に教える。
- 強く勧める。
- もちろん、コースにはもう夢中。素晴らしい機会だし、これを見逃すのは残念なことだろう。
- 当然！もう既に勧めた。
- はい。でも、もし計算神経科学の知識が既に少しあって、もちろん応用数学のしっかりとした基礎力があれば、コースから得られるものは多くなるだろうと伝えたい。

2. コースの長さ

- ちょうど良い。(2件)
- 大体良い。(2件)
- 大体完璧。
- 完璧な期間。
- ちょうど良かった。
- 最適
- 問題なし。
- 3週間の終わり頃には、ものすごく長く感じた。
- 問題なかった。もっと短い期間ではモデリングプロジェクトをあまり成功させることは出来なかったらうと思う。
- 幅広い種類の講義を受け、私達のプロジェクトを順調に進めるには、ちょうど充分だったと思う。
- 私のプロジェクトについては、良い監督が付いていれば2週間で大丈夫。他の方はどうか分からない。でももしが、もし講義内容の密度がとて濃く、講義の数とトピックの範囲が今回のようだったら、3週間より少ないと大変に厳しいだろう。
- 3週間で十分だった。
- 3週間で良い。もし長くなるなら、土曜日は休日にすべき。
- いつも充分ということはないが、問題ない。
- もし生徒のプロジェクトのことを考えるなら、短くも長くもない。だが、もし実験家向けの数学クラスにもっと時間を割いたら、とても助けになったらう。
- 構成としてはちょうど良い。
- 私の意見では、少なくともプロジェクトについては、少し短すぎ。結果が最後の週にだけ始めてきたので、焦りを感じて、もう1週間あればより高い成果が得られたかもしれない。
- 長過ぎず、短過ぎず。3週間は私にとって最適だった。
- 長いが必要。
- 私は自分のしたいようにしていられたので、長さは大変良かった。
- もっと長くても良かった！
- 家族と遠く離れているには長かった。皆と一緒にいるには短かった。
- コースの長さはちょうど良かった。
- 大体ちょうど良かった。

3. 招聘講師とは十分に交流が持てましたか？

- はい。(7)
- 講師の方々がもう少し長くシーサイドハウスに留まるか、夜に生徒達と過ごす時間を持つかしていただければもっと良かったらう。
- 講義の後の日中に何人かの講師の方々とお話することができ、また、生徒達に対する彼らの対応には感謝している。
- 個人的には十分には交流できなかったが、最も関心を抱く先生とはお話しすることが出来た。自分自身を売り込むための更なる交流を持つことは考えていないけど、もし誰か他にそう考えてい